

いなわしろ天のつぶ 誕生

【イメージキャラクター】



稲姫 舞湖(いなひめ まいく) 愛称「いなな」

生産者の声



「いなわしろ天のつぶ」
頑張ります！

農業組合法人
結乃村農楽団

代表理事
五十嵐勇夫さん

当法人では、昨年度から「天のつぶ」の作付・販売を開始しました。また、3月22日に開店予定の農家レストラン「結」でも提供します。直販先である東京や神奈川の方々の評判も上々で、今では、当法人の看板米になっています。これからは「生産調整の廃止」や「TPP」などにより産地間競争が激しくなるので、ブランド化は避けて通れないと思います。ぜひ、町を挙げて「いなわしろ天のつぶ」をブランド化し、「未来の明るい農業」をつくり上げていきたいですね。

町農産物等ブランド化推進委員会は、今後激化が予想される産地間競争に勝ち抜くため、町内産の水稻(米)品種「天のつぶ」のブランド化を進めていきます。

「天のつぶ」は、県が15年の歳月をかけて開発したオリジナル品種。食味は「コシヒカリ」や「ひとめぼれ」に匹敵するとの評価を得ており、今後市場評価が高くなることが期待されています。

同委員会では、次のような取り組みを実施し、町内産の「天のつぶ」を「いなわしろ天のつぶ」としてブランド化を図ります。

◎ロゴマーク(上)とイメージキャラクター(左)の設定

「いなわしろ天のつぶ」が一目でわかるように、平成25年産米の販売から活用します。

◎認定生産者制度の確立

町内産「天のつぶ」の品質を確保し、販売店や消費者からの信頼・信用を得るため、生産方法などをマニュアル化。マニュアルを守って生産する農業者を「いなわしろ天のつぶ」認定生産者として登録します。

◎認定店制度の導入

町内の認定生産者が作った「いなわしろ天のつぶ」、もしくはそれを利用した加工品・メニューなどを販売する店舗および利用する飲食店などを「いなわしろ天のつぶ」認定店として登録することにより「いなわしろ天のつぶ」の認知度と理解度の向上を図ります。

「いなわしろ天のつぶ」でおもてなし

町は、2月に本町で開催された第63回全国高校総体(インターハイ)スキー大会の各都道府県選手団に「いなわしろ天のつぶ」を贈呈しました。大会前の選手団受け付け時に配布し、全国に「いなわしろ天のつぶ」のおいしさをPRしました。



◀「いなわしろ天のつぶ」を手渡す石川洋一町農林課長(右)



Pick Up

今月のイベント

合宿の郷の名称が決定 「磐梯山チャレンジパーク」

表彰式の出席者ら。右から3人目が最優秀賞の高橋さん。同4人目が佳作を受賞した菅野さん

北塩原、磐梯、猪苗代の3町村などをつくる「会津磐梯山・猪苗代湖合宿の郷を創る協議会」は、3町村が一体となって誘致に取り組む合宿地の名称を「磐梯山チャレンジパーク」に決定しました。同協議会は、昨年12月から今年1月にかけて名称を募集。1月14日に開催した選考委員会において、全国から応募された63点の中から北塩原村の高橋宏典さんの作品が最優秀賞に選ばれ、名称に採用されました。

表彰式は2月13日、町役場で行われ、同協議会会長の前後公町長が高橋さんらに賞状などを手渡しました。

同協議会は、2月に東京都で開かれた東京マラソンEXPOに出展。3日間で約10万人が訪れたこのイベントで「磐梯山チャレンジパーク」の魅力を発信しました。今後もこの名称を活用し、県内外で誘致活動を展開していく予定です。

最優秀賞以外の入賞作品は次のとおりです。

【佳作】
「合宿の郷B-I-K」
菅野達也さん(喜多方市)
「合宿の森I-K-B・ばんだい」
東條泰治さん(名古屋町)
「ぐるっと磐梯山合宿の郷」
五十嵐美枝子さん(北塩原村)

まちの応援マガジン いなわしろ

広報 猪苗代

Mar.2014
3
No.641

今月の表紙



野口英世博士顕彰記念町内小学校スキー大会の男子距離リレーで熱戦を繰り広げる選手たち。学校の仲間や保護者らの大きな声援を受けながら、全力でコースを駆け抜けました。(関連11ページ)

【撮影日】 2月13日
【撮影場所】町クロカンコース

Contents — 【目次】

- 02 第1特集 本町で29年ぶりのインターハイ
- 04 PICK UP
- 05 「いなわしろ天のつぶ」誕生
- 06 第2特集 猛烈な風雪 町内に大きな爪痕
- 08 まちのわだい
- 10 笑顔でこんにちは／アロサウルスがやってきた
- 11 スクールトピックス
- 12 いなわしろタウンページ
- 18 暮らしの情報広場
- 20 みんなの美術館／食生活改善推進員コーナー